

会 議 録

1 会議名

平成30年度 第4回和田区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

（1）自主的審議事項 雪を生かした地域づくりの推進について（公開）

3 開催日時

平成30年10月11日（木） 午後6時29分から午後8時46分まで

4 開催場所

ラーバンセンター 第4研修室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委員：水澤俊彦（会長）橋本 勲（副会長）、秋山澄子、有坂正一、
市橋邦夫、岩澤 弘、植木泰行、笠原完治、小林春男、高橋善昭、
土屋史郎、前川正治

・事務局：南部まちづくりセンター 佐藤センター長、佐藤係長、小林主任

8 発言の内容

【佐藤係長】

・泉委員、平原委員を除く12名の出席があり、上越市地域自治区の設置に関する
条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報
告

・同条例第8条第1項の規定により、議長は水澤会長が務めることを報告

【水澤会長】

・会議の開会を宣言

・会議録の確認：植木委員に依頼

次第2「議題等の確認」について、事務局に説明を求める。

【佐藤センター長】

資料により説明。

—自主的審議事項 雪を生かした地域づくりの推進について—

【水澤会長】

次第3議題(1)「自主的審議事項 雪を生かした地域づくりの推進について」に入る。

前回の会議で、和田区で行う雪イベント開催に関わる各団体との意見交換の件とあわせて、当日配布した3枚の参考資料に基づき、議論していただいた。私は欠席したため、後日事務局から当日の会議録をもらい、皆さんの意見等を拝見した。この地域協議会の中で、和田区で行う雪イベントの開催目的等を示した企画内容を整理し、きちんと定めなければ、団体への説明ができないため、意見交換会に臨むことは困難との意見をいただいた。また、自主的審議事項「雪を生かした地域づくりの推進について」と「住民組織の充実と地域活性化について」を一括して自主的審議する必要があるかについても、今後協議していくことになった。

本日は前回の会議を踏まえて、和田区で行う雪イベントの開催目的等を含めたイベント企画の具体的な内容について、協議していきたいと考えている。

それに関連して、事前に委員へイベント企画の具体的な内容を照会させてもらい、考えていただいた委員意見を当日配布資料No.1のとおりまとめた。そちらの資料を活用しながら、1項目ごとに内容を決めていただき、イベント企画書(案)を完成させたいと考えている。

このとおり進めることを諮り、委員全員の了承を得る。

それでは当日配布資料No.1について、これについては先般皆さんからご意見をいただき、取りまとめた資料になるが、まだ、委員の皆さんも内容を確認していないと思うので、目を通してもらう時間を設けたい。

—資料確認—

【水澤会長】

それではまず、「開催する目的・趣旨」について入る。皆さんから意見をいただいているが、目的と趣旨、それから期待する効果という形で、出ている意見の中で、皆さんの方から何か補足すること、少し具体的に、そんなに長くなくて短めに目的や趣旨等を整理し、まとめられたらよいと思う。

目的だが、当初は資料No.1の提案書の最初にある「雪を生かした地域づくり」、これの推進だが、この雪を生かした地域づくりというのが、最初の目的になるだろうか。具体的にはいろいろな目的に対する趣旨というのがあると思う。いくつか入れておくのがよいと思うが、いかがか。

【市橋委員】

それでよいと思う。委員の皆さんから出てきたものを見ると、趣旨、目的はだいたい同じことを具体的に言っているだけで、やはり地域を生かして、特にこの上越妙高駅近辺を活性化していくということが目的だし、あとは和田区の皆さんから参加してもらって集まって、冬を楽しく過ごすという意見はみんな網羅されているので、簡単にまとめればよいのではないか。

【水澤会長】

これを全部書くわけにはいかないと思うので、まず1番上はどうなのか。いくつか意見が出されているが、やはり雪を生かした地域づくりということになるか。

【有坂委員】

これをまとめるかどうか、まとまるかどうか分からないが、最初の「雪を生かした地域づくり」だけだと、少し物足りないような気がする。例えば、雪を利用した地域の住民の交流と活性化と、あと発信をするということが、これを見るとそんな感じではないかという気がする。

【水澤会長】

まずは雪を利用することで地域の活性化を図るということか。

【有坂委員】

あと、住民の交流も目的に挙げた方がよいと思う。

【水澤会長】

地域住民の交流。他にいかがか。

【秋山委員】

私も有坂委員と一緒によい。言っていることはみんな一緒。だいたい似たようなこと。

【有坂委員】

ただ言葉が違うだけで、それをどうまとめるかというのが厄介かもしれない。

【水澤会長】

事務局、ここはきちんと目的、趣旨、それから効果とかと、1つ1つを決めた方がよいのか。

【佐藤係長】

会議終了後、こちらの方は事務局でまとめる予定である。後ほど会長から話してもらおうと思っていたが、まとめたものを再度、委員に確認いただき、修正したものを完成版とすればよいと思っている。本日委員が発言されたものは、事務局でまとめたい。

【水澤会長】

ここできちんと目的、趣旨を全て書き入れられるものではないので、事前に委員から意見をいただいた集約版と、今日ここで委員から出たいろいろな意見を事務局で取りまとめ、集約した形でまた委員に見ていただき、最終的な決定としたいと思う。したがって全ての項目で、これでなければならないという形にまとめる必要はないと思うので、付け加える意見があったら、今日この場を出していただければと思う。この開催目的、趣旨、それから期待する効果についてだが、特に期待する効果については、前川委員から、目的と効果というように具体的に意見を書いている。

【前川委員】

書いたとおりだが、要はこの取組に対して、どれだけ地域の若い世代が動いて、知恵を出し、汗を流してくれるかが肝心なところだと思う。有坂委員のとおり、住民交流とか地域の活性化、これはもちろん大切だが、住民交流という言葉が、これ

を生かした中で言葉を入れてもらった方がよいかと今気付いた。その中でリーダーを育てるということで、我々委員がそういった若い人たちに働きかけて、活性化に結び付けたらよいかというように思っているのも、中身的にはこのままの意見である。

【水澤会長】

地域のリーダーを育成ということが目的ということもあるし、効果としてその若い世代の人たちがどうやって動いて、良い効果を出してもらおうかということだと思う。

【高橋委員】

イベントを開催するという事になると、やはり人手がいるというか、その中で各団体の皆さんから集まってもらって説明会をするが、その中では、目的というのが非常に重要な部分になってくると思う。とりあえず、概要として、ある程度言葉をまとめることも必要なのかもしれないが、せつかく各委員からこうやって意見を出していただいたわけなので、これをざっくばらんに、集まってもらった団体の代表者に、このような意見があるということ、見せるのも1つの手だと思う。

【水澤会長】

後ほどの「主催者」の項目にも関係すると思われるので、いずれにしても「開催目的、期待する効果」はこの辺でいったん閉じる。

では2番目の「開催内容」に移る。開催内容について具体的な実施内容ということで、皆さんからたくさんの意見をいただいた。これを見て、何か意見があるか。かなり具体的に書いている方もあるし、その他にプラスするようなことがあれば意見を出していただきたい。

【市橋委員】

1つよいか。こういうイベントの内容の企画だが、これは昼間だけでやるのか、中には夜まで掛かるような提案もある。開催内容について委員からいろいろと具体的に挙げてもらっているのも、それを先に決めた方がよいのではないかと。

【水澤会長】

「開催時間」に対する意見か。1日の中で、どういう時間帯にやるかとか。

【前川委員】

「開催内容」の中身を見ると、大きく分けて、雪上運動会とか子どもたちが一緒になって遊ぶ雪合戦とか、そういった「雪の運動会」と、それから雪行燈とか、かまくら作りというように、「遊ぶのと雪で作ってお客さんを迎える」のと、大まかにいって分かれるような中身だと思う。それによって市橋委員のとおり、時間の区別がされていくようなものと、お金の関係にもなってくると思った。

【水澤会長】

住民の皆さんがこの雪で楽しみながら、雪上運動会や雪合戦等のようなイベントとか、雪像や雪行燈を作成して設置したいということが出されているので、事前の準備等もいろんな形で必要になってくると思う。以前、上越地域内での雪イベントの案内を差し上げたと思うが、2日に渡るような大きなイベントはなかなかできないと思うし、1日の中で時間帯と、地域住民がそこに参加してもらうことが大切だと思うので。どのように開催時間帯を考えたらよいのかというのはある。

【小林委員】

欲ばりかもしれないが、いくつかのものを組み合わせてやればよいと思う。1つは見るもの、雪像や雪行燈だとか、いわゆる「観賞する、見るもの」、それからもう1つは運動会的なもの、「体を動かすもの」、あと1つは体験型というか、私はスノーモービルなどがよいと思うが、スノーモービルに乗ってみるといった「体験するもの」と、食である「食べるもの」。それらをうまく組み合わせてやればよいと思う。時間帯もある程度、午後から夜にかけてとか、少し時間帯を長くしてイベントとか、運動会などは当然日中でないとできないし、光のライトアップとかいうものは夜でないとできないので、昼間から夜にかけて、少し時間は長くなるが仕方ないと思う。

【水澤会長】

今出たように地域住民が参加するのに、やはり昼間は子どもたちが参加しやすい時間、あとは夕刻から夜に掛けた時間設定も当然あってしかるべきだと思う。

【笠原委員】

昼間やるのか、昼だけでなく夜までやるのかというのは大事な視点。同時に「目

的」は、ほぼ委員のベクトルがあって決まった。次に何をやるかというメニュー、これはとても大事なこと。ざくっと見ると、キーワードがいくつかある。運動会だとか、行燈だとか、雪室野菜だとか、屋台コーナーだとか。結局何が言いたいのかというと、前回の会議に出たように、大風呂敷を広げて提案していこうとするのか、それとも受け手のことも考えて、受け手が引き受けてくれる可能性も意識しながら、内容を絞り込んでいくのか。ここが重要だと思う。ただ、なるべく大勢の人から参加してほしいという高橋委員の意見もあった。運動会も制約されていたので、自由に参加できる雰囲気づくりも大事なキーワードになるような気がする。その時に何をやったら受け手が出て来るかということも、意識しながらまとめてみたらどうか。そうすると、昼だけでできるのか、昼プラス夜まで掛かるということになってくると思う。

【水澤会長】

前回の会議録を読むと、いろんな意見の中で、やはり最初から大きくやればよいが、どこまで風呂敷を広げて、みんなが乗っかってくれるかということもあるし、逆に地域だけのイベントにしてしまってもよいのかどうかということもある。

【笠原委員】

大風呂敷というと選択肢を与えるから逆に説明しやすい。そこからそぎ落とされていくかもしれない。こんなものはやれるわけがないとか。イベントの受け手を決める際の場面になった時には、そういうリスクはある。

【水澤会長】

例えば、先般の会議録にもあったように、和田体協という組織があって、そこをお願いして、今出てきた雪上運動会のようなイベントをやることは恐らく可能だと思う。ただ今まで体協の運動会とか、綱引きとかバレーボール、そのようなものが年間の行事の中にあって、少し感じるのは、各町内にいる体協の役員が、結構苦勞して町内ごとの選手を確保し、体協の運動会をしたり、バレーボールをしたりということなのだが。なかなかその地域の皆さん全員参加ということにならないのが現実なのかなと。ただそれはそんな全員ができることというのはなかなかないから、これも無理なのかもしれないが。

だから雪合戦のような内容だったら、町内ごとのチームを作って出してできる。だが、それ以外のことがあれば、他のことに関われる住民の人たちもいる。先ほどあった「食」や「屋台」というものがあれば、それだけに参加できる地域の人たちもいるだろうし、ということで、やはりいろいろなことをイベントの内容として挙げていき、その中で、そぎ落とされる部分があってもよいと思う。

【笠原委員】

まだ少し迷いはあるが、どうやって攻めていったらよいか。イベントの受け手を作らなければいけないから。

【水澤会長】

私が1つ考えたのは、この協議会の委員で、こうやって話をして行って、どんどんこの地域のいろいろな団体を取り込んだり、地域の若い人たちに関わってもらって、この雪イベントができればよいと思うし、できるためにこうやっているの。開催するために皆さんからこのように意見を出してもらっているの、それも私たち委員の任期、限られた任期の中でしかない。最終的にはその任期が終わるまでに開催ができるのがベストだと思う。そこまでこれをずっと協議していくわけではないのだが。自主的審議事項として打ち出して、そこで協議しながら、結果が2年後に花咲くという形であれば、非常に理想的な最高の締めくくりだと思う。

【笠原委員】

有終の美を飾る。それは委員も、いつやるかというのはだいたいそういう考えからなのでは。2020年と書いてあるから、自分の任期と重ねて考えている。

【水澤会長】

拙速に今ここで決めてすぐできるかと言ったら、この2018年度、つまり今シーズンの冬に行くことはなかなか厳しい。だから次年度、私たちが終わる最後の時期を見据えた形で、後ろを決めた上で動いていくのがベストかと思う。

【笠原委員】

雪の運動会であれば、私が個人的にあたった印象だと、体協には脈がある。体協というのは、冬のシーズンは何もできない。だが雪の運動会だと限定されてしまうから、秋の運動会と一緒に参加者は制約される。それでよいのかというのも、考え

としてあるが。

【前川委員】

笠原委員のとおり、雪の運動会として、名称を限定してしまうと、今までの経緯から見て、今年もそうだが、各町内から無理やり誘って出てほしいというような感じで、役員が大変な思いをしているのが夏場の現状。だから、名称を「運動会」としてしまうと、やはり今までどおり、参加者を募って町内ごとの競争というか、そういうものになるとなかなか参加してくれる人も少ないような気がする。強制的に呼び付けば、それでも運動会としては成り立つのだろうが、それは嫌々ながらの参加となってしまふ。今までどおりの形の中で、町内と交流する場面の1つとして、冬場のイベントを開催することは良いような感じもあるが。それよりはイベント名称を「雪の運動会」とせず、他の名称にして、参加者が雪の上で宝探しをしたり、小林委員のとおりスノーモービルを借りてきて、それに乗って遊んでもらう形の方がよいかと思う。

【橋本副会長】

今は何をやるかということを決めるのがよいのか、そうすると今度は時間的にどうなのかという話になる。趣旨としては何をやるにしても、子どもを巻き込むということが1つ大きな目的にしなければいけないのではないかと。それから子どもだけでよいかというと親御さんのPTA関係に限らず、今度は大人、つまり地域の皆さんに参加してもらおうということになると、また別のことを考えないといけない。そうすると今度は時間的に、例えば午後3時か4時で終了するのではないという話に繋がってくる。開催する時間帯はどの辺くらいまでやれるのかとか、やった方がよいのかということも合わせて考えて行かないと、やることが限定されてしまうような気がする。だからその辺も含めて検討してもらった方がよいと思う。それと具体的な内容も決めた方がよいと思う。今言った「運動会」だけだと、非常に内容が広がってしまうし、時間的にはそんなにあるわけではないし、その辺である。

【土屋委員】

私も同じ意見だが、この後、資料の3枚目以降の項目がみんな関係してくる。予

算はどうするのか、誰がやるのか。私もよく分からないのだが、ここで、どこまで決めていくべきなのか。実行委員会が恐らくできると思う。実行委員会ができる段階で、先ほどの高橋委員のとおり、委員の意見は出ているが、予算をこのくらいでやったらどうか、その中でこのくらいできると、では人を集めるにはどうすればよいのか、その辺をある程度、実行委員会に自主的なことを任せてもよいのではないかと。イベントの名称を例えば運動会だったら、運動会だけで限定されてしまう。何とかフェスタだったら、夜もある、昼もある。そのようなことが後の項目に全部絡んでくると思う。予算をどうするのか、これだけしかないから、これでは運動会しかできないとか、そんな感じ。

【水澤会長】

前回の会議では、各団体との意見交換をするためには、具体的なこういうものを提案して、地域協議会の中で、このようなことを揉んできて、このようなことをやりたいというような提案をするために、まずは企画書を作るという話だった。だから例えば今話が出ているが、逆に子どもだけ、大人だけを対象のイベントではなく、子どもを巻き込んだり、時間帯もこうしたらどうかといった提案書を作ればよいのであって、実行委員会が立ち上がった時に、その中でいろいろな協議をしていけばよいと思う。私たち委員14名の意見はこのようにある、についてはイベントをやるために、どのように団体の皆さんから協力していただけますかと。1団体でできるならそれもよいが、できれば、運動会だけでなく、いろいろな提案が出てきたから、それをやるためにはいろいろな団体の皆さんから協力をいただいて、実行委員会を立ち上げられたらよいのではないかとという企画書を各団体との意見交換をするための基にする。今いろいろな意見を出してもらったが、具体的な内容を箇条書きで示すだけでもよいのではないかと。それを整理し、各団体との意見交換の時に、それを基に提案していく。そんな形がよいのではないかと思う。

【有坂委員】

今ほど会長が言われたことが集約的なことだと思う。各委員から出された内容は似たような部分が結構あるので、それを整理し、それをこの協議会の意見として示す。昼も夜もというのが基本的な行事になると思うし、基本は全員参加ができるこ

とを考えて提案するという事だ。その後は実行委員会なり、地域の人たちと話し合うための、たたき台となる企画書を作るというのが大事な趣旨だと思う。まずはこれをまとめておけばよいのではないか。具体的な内容については、あまりはっきりと書かないで、少しオブラートに包んだような表現にしておけばよいのではないか。

【水澤会長】

有坂委員の書かれている、プロジェクションマッピングは、具体的にできるかはわからないが。

【有坂委員】

ただ、駅のコンコースから見ると意見したが、これから建物ができると見えなくなる。後で気付いたが。

【水澤会長】

駅舎に映すとか。

【有坂委員】

ここにマンションができるし、マンションの上から眺められればよい。

【水澤会長】

意見交換の時に、委員の思いが入った具体的な企画書と一緒に話ができれば、団体の皆さんもその気になってやれるようになるのかなと思う。最初のイベント開催というのは、いろいろ紆余曲折があつてスタートすると思うが、笠原委員のとおり、大風呂敷を広げるくらいの中から、ある程度そぎ落とされて内容が決定される。そしてそのイベントが継続的にできていき、何回か重ねるうちにもっと大きなものになっていけば、こんな良いことはないと思う。

【前川委員】

問題は継続できるような内容にしていかないと。1回限りだけで終わるようでは。

【植木委員】

いろいろな案が出ているが、集まって競技をやるとか、それから事前に時間をかけ、もの作りをしなければいけないものもある。例えば、行燈を5千個作る、1万個作るといったら、相当の人数が必要になってくると思うので、事前に作って楽し

む、光を入れて見て楽しむという部分で繋がりができる。大きな目的の1つとして、協調することができるのではないかと思います。いろいろなことがいっぺんにできれば、一番良いが、団体から受けてもらうには、やはり的を絞って、みんなで協力してものを作って楽しむという方が入りやすいと思う。イベントの持続性についても、毎年同じようなパターンで数を増やしていくにはどうしたらよいかみたいなことも規模の問題としてあるのではないかと考えた。

【水澤会長】

この開催内容については、いろいろと皆さんからの意見が書かれているので、これも事務局で少し整理してもらったらどうか。事前に雪灯籠だったり、雪像だったりというのは、準備も当然あるし、そういうものと先ほども話があったが、体験型のイベント、それから運動会的なものを企画書に入れていくということで、あとは日中から夜にかけてという部分、それから「食」の屋台みたいなものを含め、開催内容については、ここに書かれているようなことと、それから今まで出た意見について、事務局からまとめてもらおうと思う。

【笠原委員】

事務局がまとめると、恐らくざっとメニューが並んで、親子3代自由参加的に、全方位を賄うものになるだろう。それでよいと思うが、ただ受け手のことを考えると萎縮してしまう。まずはそれ。それでどうやって話合いの中でそぎ落とされるか、あるいは何をやるのかという話は、その次の話でよいと思う。まずはスタートする。広く参加できるようなフェスティバルというイベントになるのだろうと思う。

【水澤会長】

最初の目的、趣旨にもあるように、やはり和田区の住民がここに参加するということが、それが大前提だと思う。例えば駅利用者とか、いわゆるこの上越地域全体の皆さんを相手にしてというようなイベントではないということを前提にしなければいけない。まずもって。いずれもっと大きなものになっていくかもしれないが。

【市橋委員】

今の意見には賛成するが、上越妙高駅周辺で行うイベントを見ていると、非常に和田地区の参加者は少ない。高田方面から電車で来る方が結構いる。そういう人の

ことも考えていかないと。和田地区だけだと。私たちのところからは夜に子どもはもちろん大人だって出て来ない。特に日曜日となれば、翌日月曜で仕事や学校もある。昼間だけなら参加者はいるかもしれないが、夜は遠くの方は参加しない。そうになると、和田地区だけというのは。やはり宣伝して、他の地域から参加してもらう方がよいと思う。

【有坂委員】

時期と時間という話も市橋委員から出ていた。やはり開催するとなれば、日時は土曜日になるかと思う。土曜日が仕事の人も結構いるので、出られない方もあるとは思いますが、翌日仕事を抱えてやるというと、夜のイベントをやるとなれば無理があると思う。ましてや冬、交通機関がこの地域は夕方になるとほとんどないので、結局は車で行き来するとなると、土曜日であれば多少は遅くなっても仕方がないということになるだろう。また、地元だけというくくりでやってしまうと、なかなか参加者もいないのではないか。内容にもよるが、むしろ地区外、言うなれば全国的に参加を募るというような項目を設定した方がよいのではないかと思う。この中でもそういう形でできる種目、項目もあるし、そこに屋台なりができれば、それなりのイベントになるのではないかと思う。

【水澤会長】

地域活性化を図るが大前提だが、大きく広げるという意味では、上越地域全体に呼び込めるようなイベントになればよいし、それについても具体的になった時点での話だと思う。委員が思う希望とすれば、やはり大勢の人から集まってもらって盛り上げてほしいということだと思う。

具体的な「実施内容」については列記してある内容でよいかを諮り、委員全員の了承を得る。

続いて3番目の「イベントの名称」に入る。名称も皆さんからいろいろな意見を出してもらっているが、これを1つにというわけにいかないのが、委員からこのような意見が出たということを示すことでよいのではないかと思う。

【有坂委員】

イベント内容が決まった段階で名称も決まってくると思う。

【水澤会長】

ここに列記されている以外で、このような名称はどうだろうというものがあれば承るがどうか。この中から決定するわけではない。

出ている名称の案を団体に示すことでよいかを諮り、委員全員の了承を得る。

それでは4番目の「主催者」に入る。先ほどから話が出ているように、これを関係団体との意見交換に使うので、そこからどういうようにしていくかということになる。委員から出ているのは、現在ある地域の中の団体に、そのまま主催者になってもらう意見、新しく実行委員会を立ち上げて、実行委員会が主催者となるという意見も多く出されている。いろいろな団体と意見交換をしていく中で、主催者をどうするかが決まっていくと思うが、いかがか。

【笠原委員】

規模にもよるし、イベントのメニューにもよる。

【水澤会長】

実行委員会方式になるのかもしれないが。

「主催者」については、委員の考えを団体に示すことでよいかを諮り、委員全員の了承を得る。

それでは5番目の「場所（具体的な会場）」に入る。これについても委員の意見にもあるように、釜蓋遺跡公園がキーになるだろうか。

【前川委員】

広い場所といえば、そこしかない。

【小林委員】

ここしかない。

【水澤会長】

上越妙高駅周辺の西口、東口の区画も埋まってきているし、そこをなかなか使うわけにもいかない。民有地なので。公園であれば、以前にも、夏イベント、オクトーバーフェストなどで使用された実績がある。公園であるだけに使い勝手はよいと思う。

【土屋委員】

ただ遺跡が。

【有坂委員】

遺跡の中は立ち入ってはいけないのか。

恐らくスノーモービルを動かすとなると、遺跡の中は無理かと思う。例えば、ある程度雪が積もった状態で、雪合戦等のイベントがあな場所のでできるとなれば、かなり広い面積を使えると思う。

【橋本副会長】

逆にそこが使えないと広い場所がない。運動会となれば。

【有坂委員】

公園というのは芝が張ってあって、道路から発掘している間に結構広くある。ただそれより広く使いたい時は、発掘の中にも入らなければならないのかと思う。私が提案した、発掘した状況をライトで表示するというのは、当然その中に入らなければならないので。そのスペースを使えるかどうかということをも確認しなければいけないと思う。

【水澤会長】

やはりその釜蓋遺跡公園というのがキーで、遺跡全体を使えるかどうか。以前聞いた時は、遺跡は文化庁の管轄になったりするが、発掘が終わってしまえば、上を自由に使えるというようなことを聞いたことがあった。ただ今は発掘が全部終わっているわけではないので、冬のシーズンに雪がある程度積もってしまっていて、その上を踏み固めてできるかもしれない。発掘している場所も含めて、釜蓋遺跡公園をどのくらいの範囲で会場設営ができるのかということをも事務局から確認をしていただきたいと思う。場所については、具体的な会場として釜蓋遺跡公園ということをも提案したいと思う。

次に6番目の「日時（開催目標年）」に入る。多くの委員は2020年冬、2月と具体的に書いてある。先ほど話をしたように、私たちの委員任期が満了する時期までに開催するのが、良い時期ではないかと思う。ここに合わせて動いていくのが非常によい気がするが、いかがか。

【土屋委員】

しかし、2020年2月にした場合、地域活動支援事業補助金を活用するのなら、今年度中に申請しなければ駄目なのだろう。

【水澤会長】

いや、来年度である。

【土屋委員】

要するに今年度中に事業の計画を作らないと。大丈夫か。提案書を作らなければならない。

【水澤会長】

3月31日というのがキーポイントになると思う。4月の申請をするとなると。

【土屋委員】

私は無理だと思ったから、2021年とした。今年度末までに提案書を作成して、来年度の補助金をもらって運営していく。

【水澤会長】

具体的にいろいろな団体と意見交換を進めていく中で開催時期が決まっていくのではないか。

【土屋委員】

相当ピッチを上げないと、今のような感じで進めていけば間に合わない。

もう11月だから。

【市橋委員】

地域の関係団体に早く話を持っていかなくては駄目だと思う。

【土屋委員】

地域活動支援事業を使わなければよいのだが。企業の協賛金だけでやっていけるのであれば、開催時期はいつでもよい。

【水澤会長】

しかし、多くの委員は地域活動支援事業の活用を前提に考えている。それがあから私たち委員がこのような話をしている。

【土屋委員】

今から計画して、時間的に間に合うか。

【笠原委員】

我々委員にとって、任期のけじめとしてはよいかもしれないが、あまり急いでも内容が伴っていなければ。

【水澤会長】

土屋委員のとおり、例えば、委員任期の中で最終的に提案ができて、2020年度予算か、それで2021年の冬に実行するということでもよい。

【土屋委員】

私はそのくらいのスピードでしかできないのではないかと考えている。

【水澤会長】

他に意見はあるか。私たち委員が「2020年を目指してやろう」と言ってできる話ではない。本当に意見交換が始まって実行委員会が立ち上がり、どんどん中身を詰めて行って、3月末くらいまでにある程度具体化して、4月末の申請に間に合うということ。可能性としてあれば、2020年の冬にという可能性は高い。だからこういう形でスムーズにいけばできるのではないかという思いもあるし、逆にじっくりとイベント内容も含めて、1年かけて2020年度予算で申請するというような方法もある。

努力目標といえ、きれいに任期を全うするというので、イベントを最後にやるという考え方もあると思う。2020年の冬と意見している委員もいたが、恐らくそれも含まれると思う。2020年末までに具体的に決めて、その翌年ということもあるということ。その辺で少し日時については考えたらどうか。

【前川委員】

日時をはっきりした方がよいのではないか。

【小林委員】

やはり、2020年2月冬を目標にしてやるべきだと思う。あまりのんびりしていてもよいものか。やると決めたなら、さっさとやるべきだと思う

【土屋委員】

来年の4月になれば分かる。補助金を申請すればできるし、申請が間に合わなければできないし。

【笠原委員】

この協議会委員14名が、実行委員会に手を上げてやるなら、可能性はある。実行委員会が違う組織となると、説明等に時間が掛かる。

【前川委員】

我々は実行委員会ではないのだから。

【笠原委員】

だから読めない。

【前川委員】

実行委員会からやってもらうためには、恐らく時間が掛かるような気がする。関係団体にも所属している笠原委員の考え1つで進むのでは。

【市橋委員】

今言われたことは分かるし、私もそう思う。しかし、町内会長会でこういう具体的な話をいつするのか。それが決まらないで、ただここで議論をしても、何も始まらないと思う。

【笠原委員】

そんなことは不明である。何もできていないから。

【市橋委員】

できていなくても、こういうことは早く振興協議会に話をし、そこから町内会長会に協力を求めていかななくては間に合わない。

【笠原委員】

だからその背骨となる企画書が完成すれば、いつでも集められる。ただそれを受けられるかは全然分からない。それは企画書次第。今の状態では出せない。

【橋本副会長】

しかし提案書を今日まとめなくてはならない。

【笠原委員】

あと1週間でまとめるなら、再来週に意見交換会を行えばよい。

【橋本副会長】

まとめは事務局にもお願いしなければならない。いずれにしてもこういう形で企

画書をまとめるという話になっている。だからいかに早くこれをまとめて、団体にお願いするのは、1日でも早い方がよいという前提でやらないといけない。

【水澤会長】

委員の皆さんもそうだと思うし、関係団体に提案するための企画書を作らなければならない。今日それを協議してもらっている。

【笠原委員】

なんとなくイメージする企画書ができるのは、1週間でできると思うし、そうすれば次の行動が見えてくる。

【水澤会長】

いずれにしても目標を立てて、尻合わせではないが、2020年冬であれば、そこに合わせてやる。私たち委員がそれまでに何をしなければいけないか。実行委員会が立ち上がって、どのように進めてもらうかというのも含めて、委員がある程度関わる部分も当然あると思う。その方が具体的な話が早いかもしれない。せっかくやっている委員任期4年の集大成としたい。

【前川委員】

委員が実行委員か。

【有坂委員】

誰かが引っ張って行かないといけないわけだから、言い出した人間がやはり引っ張らないと駄目だと思う。

【水澤会長】

時期は具体的に2020年冬、2月という形にしよう。

では7番目の「参加対象者（参加者数の目標や規模）」に入る。これについてはイベント内容によっても変わってくる。対象者は「人」全てでよいか。

【有坂委員】

和田地区住民全員。

【水澤会長】

ここにもあるように、和田地区住民、それから具体的に500人とか、1万人規模とか、随分差がある。

【前川委員】

1万人なんてわけない。チラシや案内の関係によって全く変わってくる。

【水澤会長】

どう呼び込むかもあるし、イベント内容によっても変わってくる。100人や200人規模と1万人では随分違う。

【笠原委員】

観光客も含めているのだろう。

【有坂委員】

和田区域だけでやろうとすると、やはり何百人単位でやるしかないだろうし、他の地域まで呼び込もうとすると、それこそ1万人になる。その規模によって内容も変わってくるのだろう。

【前川委員】

私の参加者というのは具体的に考えたのではなくて、要は例えば行燈を作った時に、どれだけの人が来て、集まって見てくれる人という意味である。行燈の作成をするのに1万人が必要という意味ではない。

【橋本副会長】

集客か。

【前川委員】

集客として考えている。

【有坂委員】

来てほしい人間の数。

【前川委員】

そう。

【有坂委員】

活動する人は、基本的には和田地区の人か。

【植木委員】

行燈等を作るのは和田地区の住民がやる。

【秋山委員】

上越妙高駅を開業する時、脇野田駅を取り壊す時に、雪の光でイベントを行った。

【土屋委員】

行燈ね。

【秋山委員】

行燈か。作った。

【水澤会長】

たしか、開業前イベント。

【秋山委員】

そう、開業前イベントでやった。

【市橋委員】

しかし行燈を作ったのもみんな動員。町内なんて、みんな町内会長会からの動員である。だから否応なしに参加した。今度はイベントである。そういうのに動員はかけられない。そこもよく考えないと。正直体協の運動会でも人間がなかなか集まらない。なぜかという、マンネリ化しているから。体協の役員からは、もうやっていけないから、老人会でやってほしいという声もちらほら出ている。本当にこれだけのイベントができるのかということ、真剣に皆さんから協力してもらい、話をまとめてもらわないと少し不安。

【笠原委員】

話合いの中で集約するしかない。ここの部分は引き受けたいという団体があるかもしれないし。そういうことは、あまり決めないでやった方がよい気がする。

【水澤会長】

今の集客目標というのは、1万人でも1万5千人でもよいが、やはり当然地域の皆さんが参加する、関わるという部分においては「和田地域の住民」が関わることに目的であると思う。どのような関わり方をするか、関わってもらえるかということである。そんな形で参加対象者を決定したいと思う。それから数値的目標はどうするか。

【有坂委員】

数値目標はいらぬが、もちろん地元の人が優先で、いろいろとやってもらうの

はお願いしたいが、集客ではなくて、作業をする人についても和田区以外の人から集めるのも、1つの手だと思う。それも参加対象者として含めた方がよい。どなたかも書いていた。

【水澤会長】

それらを含めてまとめたい。

続けて8番目の「予算・財源（参加費用等）」であるが、何かあるか。

【前川委員】

これはイベント内容によって違う、変わるから何とも言えない。

【水澤会長】

市の地域活動支援事業補助金の総予算を全て使う。

【笠原委員】

それは無理。その時に協賛してくれる企業を募るかどうか、ここが大事なポイントである。それをやるか。頼みにいけば、強制的みたいなものだが。これをどうするか。

【有坂委員】

やはり協賛企業を募らないと、内容にもよるがお金が必要になった場合には、必要な金が集まらないと思う。だから最低限のお金を集めるには、協賛を求める必要がある。

【笠原委員】

毎年協賛金をお願いすることになってしまう。

【水澤会長】

以前、地域活動支援事業の提案の中で、駅東口の桜の木に巻きつけるイルミネーションがあった。あれは地元企業のほか上越地域内の企業から協賛金をもらい、かつ地域活動支援事業の補助金で実施した。あの事業は1回だけ開催したものの、その後は市に引き渡した。

【笠原委員】

単発イベントでなく、毎年のイベントだから。

【市橋委員】

今年だったか、夏に駅東口で屋台を出した。そこでは出店料を取って店を出したと聞いているが、企業協賛の状況はどうだったのか。

【水澤会長】

私の知る限りでは、夏イベントはいわゆる、今年オクトーバーフェストが、高田公園に戻ってしまうということで、7月の雨降りの中で、木金土日と4日間開催した。あれはやはり何社かというよりも、誰か1人が手を上げて、屋台の出店希望者を募って、1テントいくらかということで出店費用を集めて行った。掛かっている費用は恐らくそんなにはないと思うが、ただ営利目的でやるので、市は協賛していない。

【市橋委員】

その前に大日にある民間福祉サービス会社で大鍋をやった。おにぎりを作って、売っていたが、あれはその会社だけでやったのか。

【秋山委員】

その会社だけでやったと思う。

【市橋委員】

その会社だけか。あのようなところを利用すればよいのか。大鍋を頼むとか。

【前川委員】

鍋を借りる場合か。

【市橋委員】

いや、鍋料理自体を作ってもらおうこと。

【秋山委員】

その会社もどこかにお願いしたと思う。

【笠原委員】

今回の場合はお金が欲しいわけである。高土地区で雪明りフェスタをやっているが、そこでは具体的にいくらの協賛金をもらってやっているのか。

【佐藤係長】

今手元に資料がないので不明である。

【笠原委員】

地域活動支援事業補助金とは別に企業でバックアップしているのだろう。

【佐藤係長】

いわゆる企業の協賛金がどのくらいあるかということか。全体の事業費の中の財源内訳として。

【笠原委員】

少し確認してほしい。

【佐藤係長】

それは団体が独自で集めたお金だと思われるが、そこは確認してみないと分からない。

【笠原委員】

協賛とはそういうことだろう。

【水澤会長】

祭りとかは毎年のことになっていくと、それも定着すれば、地元企業もわずかながらでも出すと思う。

基本的に地域の祭りとかイベントとなると、各町内もそうだが、その町内の企業にお願いに行く。そういうのが和田地域内の事業所は商工会の会員数を見てもそこそこあるし。

【笠原委員】

協賛はほしい。必要。

【有坂委員】

やはり必要となる。

【前川委員】

駅の周り、ホテルなど。

【秋山委員】

新しい企業。

【水澤会長】

新しい事業所は上手にやっている。集客もあればもう全然。もちろん地域ぐるみというのは、そのようなものである。地域住民もそうだが、地域の企業も含めて。

予算、財源となると、これもイベントの大きさにもよるが、本当にそれだけの協賛金を集められれば、大きな事業ができるのも事実だと思う。それは何をやるかにもよるが、どのくらい集められるかも含めて考えていく必要がある。

【前川委員】

毎年協賛金を求めた中での行事が、継続して何十年も続けられるかどうかということもあるので、そのあたりも考えて。イルミネーションと一緒に継続できない場合もある。

【水澤会長】

あれは基本的に、1回は出してくれるような企業にしか行っていない。継続性があるという話もないから、では1回だけなら協賛金を出すという話になってしまう。これから地域の1つのイベント、祭りとしてやるので、継続してやるために協力を仰げば、それはやはり地域の企業も協力はしてくれると思うし、そうでなければいけないと思う。

【有坂委員】

まずは何をするかということを決めないと、お金もついて回らないので、それも継続性のある内容にしていけないといけないと思う。

【佐藤係長】

笠原委員から照会のあった高士ルミネの事業について。地域活動支援事業の事例集にも記載されている、その数字しか把握していないが。それによると事業費は241万円。その内、地域活動支援事業が238万円。差額としては3万円程度しかない。それが協賛金かどうかは分からない。市は団体から提出された提案書しか情報がない。団体に対してそこまで立ち入って深く聞けるかということ、厳しいのではないかと思う。

【有坂委員】

地域活動支援事業の申請以外に、実際裏にはもっといろんな財源があるのかもしれない。それは表には出ていないだけなのでは。

【佐藤係長】

同一事業でなく別事業で、別会計で管理しているのかもしれない。

【有坂委員】

恐らく表に出ているのは地域活動支援事業の補助金だけ。

【佐藤係長】

補助対象としている事業だけはこうやって提案しているが、補助対象外経費は別にあるかもしれない。そこについては市では分からない。

【有坂委員】

本当の総予算は分からないものね。

【水澤会長】

高士区は、それこそ1企業で、集客を見越して、ある程度金を吸い込むのではないかな。

【有坂委員】

多少は出していたと思うが。そんなに大きな金ではない。

【市橋委員】

全部使えない。来年度以降に繰り越していかないといけないし、正確な額は出さない。

【水澤会長】

それもイベントの具体的な中身や規模で変わってくると思う。「予算・財源」についてはこの程度にして、次に移りたい。

9番目の「その他」に入る。何かあるか。委員からは問題点をたくさん書いてもらっている。

【有坂委員】

問題は雪が降るか降らないか。

【水澤会長】

雪イベントなので雪がないと大変だが、雪は自然相手なので分からない。ただ日程や開催内容が決まったら、雪をかき集めてでもやらなければいけないのかもしれないし、計画どおりには行かないというのも現実。問題が出たら、また解決していかなければいけない。その他について特に意見がなければ、これで終了したいと思う。

一応全ての項目について委員から協議をしていただいた。これについては先ほど話したように事務局で取りまとめてもらい、委員から確認をしてもらいたいと思う。その件で事務局から説明をしてもらう。

【佐藤係長】

当日配布資料No.1に基づき、本日委員から発言のあった意見を含めて、事務局で取りまとめるが、どうしても内容が広範囲になるので、取りまとめ方の判断は事務局に任せてもらいたい。取りまとめ後、委員へ内容を示し、意見をもらい、再度修正する作業が必要になってくると思うので承知願いたい。

事前に委員が確認された企画書（案）を基に次回の会議に臨むということによいか。意見交換会の前に、もう1回会議をするということになる。

【水澤会長】

今事務局から話があったように、今日のいろいろな意見も集約して、もう1度この企画書をきちんと作成してもらい、各委員の皆さんに1回送って、先般意見を出していただいたような形でお願いしたいと思う。何か補足があればそこに付け加えてもらうような形で事務局に返信してもらいたい。最終的にそれを協議会で確認した後各団体に提案したい。協議会は開催せず、委員に送付して、協議会の企画書に問題がないということであれば、意見交換する具体的な関係団体、意見交換の日時を今日決めるということもあるが。

【笠原委員】

関係団体への説明は一発で終わらせよう。関係者を全員集めるなんて有り得ない。振興協議会には中に5団体が入っているが、その役員だけでよい。それと体協等の代表者をそれぞれ1人ずつ入れる感じでよいと思う。一発勝負でいこう。

【水澤会長】

例えば、企画書を見ていただき、意見交換する団体を、どこの団体にするかというのを今ここで決められれば。企画書を委員に送付して、確認したものに問題がなく完成しているのであれば、どの団体と意見交換することを決めればよい。

【笠原委員】

私の考えは、全団体。農協の婦人部とかではなくて、以前事務局がリストアップ

してくれた団体があるが、あの団体の代表者を全部、一同に。ただし、振興協議会は会として一番大きいので、その役員は必須。

【水澤会長】

前回の会議で配布された参考資料から、和田地区振興協議会、これはいわゆる5団体が入っている。和田体育協会、和田小学校PTA、大和小学区PTA、南部振興会、上越市新幹線周辺地区商業地域土地利用促進協議会、吹上釜蓋遺跡応援団、上越市消防団上越方面隊和田分団。過去に地域活動支援事業で採択された団体というのが、町内会長会というのは振興協議会に入っているからこれはよいが、上越妙高駅と共に歩む会、脇野田ゆかりの会、J-M エコーズ、大和倶楽部、小学校後援会。

【笠原委員】

J-M エコーズは。

【市橋委員】

J-M エコーズは2か月に1回、駅東口で演奏をしている。あれをそのまま雪の上でやってもらえばよいのではないか。

【笠原委員】

南部振興会とはどのような団体か。

【水澤会長】

南部振興会は、和田地区商工振興会とかぶっている部分があるが、寺町、西田中あたりの工業団地ができる時に、設立された団体である。この和田区以外の土地を取得した建設業者も入っているが、ほとんどは和田地区商工振興会にも属している方々である。

【笠原委員】

大和倶楽部は入っているか。

【水澤会長】

大和倶楽部も若い人たちがいる。あとは安協が。

【前川委員】

安全協会はみんなだぶっているだろう。町内会の関係の。

【水澤会長】

ここにあった上の団体にプラスするとなると、大和倶楽部。J-M エコーズや脇野田ゆかりの会というのは、恐らくそこに入っている、いやいないか。

【市橋委員】

上越妙高駅と共に歩む会は入っているか。この団体にも来てもらった方がよいのでは。

【水澤会長】

どこまで広げるのかもあるが。「委員から発言のあった団体」をまず見ていきたい。

【笠原委員】

代表や役員だけでよいのでは。

【水澤会長】

「過去に地域支援事業で採択した団体」、このあたりが難しい。意見交換会に来てもらえるのなら、全団体から来てもらった方がよいのだが。

【笠原委員】

代表が来られない場合は代理ということをお願いしておけば、団体関係者に情報が行き渡ると思う。

【水澤会長】

安協はよいか。

【市橋委員】

いいのではないか。

【水澤会長】

後援会以下はよいか。

【有坂委員】

和田の歴史を作る会は。

【笠原委員】

それはよい。

【水澤会長】

では私の判断で、リストの上から大和倶楽部までとしたい。町内会長会や振興協議会はだぶっているので、上越妙高駅と共に歩む会、脇野田ゆかりの会、J-M エコーズ、大和倶楽部、この4団体には案内するという事だ。

【佐藤センター長】

南部振興会は含めるか。

【水澤会長】

南部振興会はいらないと思う。

【佐藤係長】

南部振興会以外は案内をするということか。

【水澤会長】

そのとおり。

【有坂委員】

南部振興会の事務局はどこにあるのか。

【水澤会長】

今南部振興会は飛田会長。リスト下の土地利用促進協議会と少し絡んでいる。

【笠原委員】

寄付金がもらえるところかもしれない。

【水澤会長】

だからこれは非常に大切な原資だと思う。

【有坂委員】

入れた方がよいのでは。工場団地の企業に声をかけた方が、資金集めにはよいので。やはり名前を出した方がよい。

【水澤会長】

あれは1つの組織であるのだが、そこも変な話、商工会会員もいるし、南部振興会にも入っていて、結構だぶっている。

【有坂委員】

だぶってはいるが、一応名前を出しておかないと。うちの名前がないじゃないかというのも、中にはいるから。

【水澤会長】

それは重なるから。

【秋山委員】

重なってもよいから、名前だけは出しておいた方が。

【水澤会長】

分かった。南部振興会も入れておきたい。大和倶楽部まで。その団体に案内を出すという前提で、次の地域協議会の会議を意見交換会としてよいか。その前段で今日の意見を集約したものは、また事務局から委員に配布してほしい。

【笠原委員】

丁寧なやり方とすれば、1回確認し合ってから、これで提案しよう。

【水澤会長】

ではそうするか。少し会議の間隔は狭くなるが。

【笠原委員】

2020年の2月だから。実行委員会の「じ」の字も決まっていけないのに、それがノーだったら。

【植木委員】

2019年というのは、4月に申請しないといけないから。

【土屋委員】

あと半年しかない。

【水澤会長】

ではもう1度意見交換会の前に会議を持つ、よろしいか。年末に近づくと、タイトな日程になると思うので。

【笠原委員】

意見交換会は11月にやらないと、12月になると他の団体みんな大変だと思う。

【水澤会長】

11月に意見交換会をして、その前にもう1回協議会を行う。

【秋山委員】

2週間後でも仕方がない。

【佐藤センター長】

次回の地域協議会の日程を今決めていただければありがたい。

【水澤会長】

意見交換会を11月中に開催するというので、これは大前提なので、その前の協議会をいつにするか、今日出席している委員の都合で決めたいと思う。事務局は今日の意見を集約し、企画書原案を作り、事前配布をして、会議に臨むにはいつ頃ならよいか。

【佐藤係長】

地域協議会の前に、正副会長の事前協議をしたいと思うので、その期間も加味してほしい。

—協議会日程調整—

【水澤会長】

それでは第5回協議会を11月2日（金）としたい。

第5回地域協議会を11月2日（金）午後6時30分から開会することについて諮り、委員全員の了承を得る。

では、11月2日（金）の午後6時30分から、会場はラーバンセンターということとしたい。

意見交換会の日取りを決めるか。2日になってそこから決めて案内を出したのでは、皆さんの都合もあるだろうし。

【笠原委員】

よい。

【水澤会長】

2日の会議で企画書案が決まれば、そんなに先送りしなくてもよい。年末にあまり近くなならない方がよい。11月の3週目くらい、12日の週はどうか。

—意見交換会日程調整—

【水澤会長】

意見交換会の日程は11月15日（木）としたいと思う。

【佐藤係長】

確認だが、和田地区振興協議会は5団体から構成されているという話なので、5団体の方全員から集まってもらうということか。

【笠原委員】

和田地区振興協議会の役員。役員は団体の会長をやっているから兼ねている。役員でよい。会長を入れて6人。

【佐藤係長】

団体だけで、最大17人となるか。

【市橋委員】

だぶっている人がいるのでは。

【水澤会長】

振興協議会は結構だぶっている。

団体への案内は。

【佐藤係長】

突然郵送で送るか、直接代表者に案内状を持って行って、経緯を話して渡すか。事務局では、団体の住所等が分からないところもある。正副会長の方で分かれば、後で教えていただきたい。

【水澤会長】

説明して手渡した方がよいのか。

【佐藤係長】

配布の仕方はいろいろある。

【笠原委員】

地域協議会の会長名で、趣旨を書いた文書を1枚入れればよい。

【水澤会長】

とりあえず15日で予定して、場所は和田地区公民館にしておく。もし会場が駄

目であれば、別の日を考える。

【笠原委員】

大前提は、15日の夜、和田地区公民館で。事務局で確認できるか。

【佐藤係長】

11月15日（木）、会場は和田地区公民館で確認したいと思う。結果として和田地区公民館が使用できないのなら、別の日に改めて行うということか。

【水澤会長】

では各団体への案内は趣旨を書いて、会長名で案内を送付してほしい。団体の住所については後ほど事務局に連絡する。

【佐藤センター長】

郵送でよいか。

【水澤会長】

郵送でよい。

【佐藤係長】

案内に記す経緯の説明としては、自主的審議として地域協議会で議論を行っている、地域の活性化を図るために和田区で雪イベントをやりたいと思っている、については、関係する団体の皆さんと意見交換会を開催したいといった内容で案内する。出席していただくのは代表者でお願いしたいが、都合が悪ければ代理の方から出てほしいと記す。出欠票のようなものを一緒に添付して案内するイメージか。

【水澤会長】

先ほどの事前協議は副会長と日程を決めたい。事務局の取りまとめはいつまでかかるか。それ次第。

【佐藤センター長】

意見交換会の案内は早く送らなければいけない。

【水澤会長】

15日の1か月前とすれば来週か。来週早々に送りましょう。

【佐藤係長】

関係団体の代表者やPTA会長などの住所を教えていただければありがたい。

【水澤会長】

住所関係は私が後で事務局に連絡する。

次回の日程、それから意見交換会の日も決まったので、予定していただきたい。

—事務連絡—

【水澤会長】

「事務連絡」について、事務局に説明を求める。

【佐藤センター長】

- ・今後の日程の確認

第5回地域協議会

11月2日（金）午後6時30分～ ラーバンセンター

関係団体との意見交換会

11月15日（木）午後6時30分～ 和田地区公民館

（会場が空いていなければ、日程調整から）

- ・配布資料

第6次総合計画（案）説明会開催のチラシ

ウィズじょうえつからのおたより

【水澤会長】

事務局の説明について、質疑を求めるがなし。

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 南部まちづくりセンター

TEL : 025-522-8831（直通）

E-mail : nanbu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせて御覧ください。